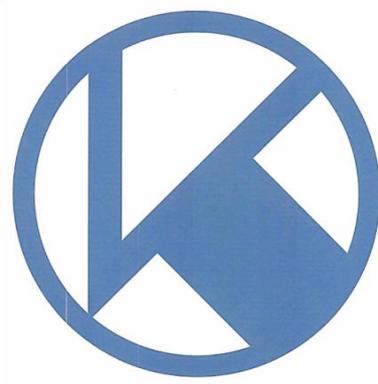


2022年度
郡山健康科学専門学校
講義概要



作業療法学科
4年生

学校法人こおりやま東都学園

作業療法学科 2019年度生 履修一覽

1年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤 人間と生活	哲学(選択必修)	
	心理学(選択必修)	●
	法学	●
	医療倫理	●
	社会福祉学	●
	統計学	●
	物理学	●
	化学	●
	保健体育	
	英会話 I	
人体の構造と機能及び心身の発達	骨・筋系解剖学	●
	内臓系解剖学	●
	神経系解剖学	●
	解剖学実習 I	●
	神経機能生理学	●
	植物機能生理学	●
	生理学実習	●
運動学 I	●	
保健医療福祉とリハビリテーションの理念	リハビリテーション医学	●
	リハビリテーション医学概論	●
基礎作業療法学	基礎作業療法学	●
	作業療法演習 I	
	作業療法概論	●
地域作業療法学	生活環境論	●
	看護・介護概論	

2年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
科学的思考の基盤 人間と生活	英会話 II	
人体の構造と機能及び心身の発達	解剖学実習 II	●
	運動学 II	●
	人間発達学	●
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	病理学	●
	臨床心理学	●
	内科学	●
	整形外科学	●
	神経内科学	●
	精神医学	●
	小児科学概論	●
	老年学	●
	薬理学	●
	基礎作業療法学	応用作業療法学
	作業療法演習 II	
作業療法評価学	作業療法評価・測定論	●
作業療法治療学	精神科作業療法評価学	●
	日常生活技術論	●
	高次脳機能概論	●
臨床実習	見学実習	

3年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
疾病と障害の成り立ち及び回復過程の促進	理学療法概論	
	言語療法概論	
基礎作業療法学	医療英会話	
	レクリエーション(選択必修)	
	障害者スポーツ(選択必修)	
作業療法評価学	臨床作業療法学	●
	リハビリテーション工学演習	●
作業療法治療学	精神科作業療法治療学	●
	義肢・装具学	●
	老年期作業療法学	●
	発達障害作業療法学	●
	中枢神経系作業療法学※	●
	末梢神経系作業療法学	●
	ハンドセラピー概論	●
	日常生活技術演習	●
地域作業療法学	地域作業療法学	●
	福祉住環境論	●
臨床実習	評価実習	

4年		
教育内容	科目名	国家試験該当科目
基礎作業療法学	作業療法研究法	●
	作業療法マネジメント概論	●
	総合演習	●
臨床実習	臨床実習	

3. 専門分野

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法研究法 ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井 俊介 ¹⁾ 、内柴 佑基 ²⁾			薄井
		1) 病院(作業療法士)11年勤務、2) 病院7年(作業療法士)勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学	4	前期	15(30)	講義	1
【授業の概要・目的】					
シングルケーススタディ(事例研究)を発展させ、評価結果の解釈の精度を高めることができる。治療計画立案を対象者の作業遂行文脈を含めた多面的な視点で進めることができる。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①領域別の作業療法過程について理解を深めることができる。 ②評価結果の関係性を論理的に説明することができる。 ③評価結果から適切な予後予測を行い、適切な目標設定ができる。 ④ガイドラインに沿った作業療法プログラムを立案できる。 ⑤多面的な(その人の作業遂行文脈を取り入れた)治療計画立案ができる。				考え抜く力 知識・理解 情報活用能力 統合的学習体験	
【履修上の注意】臨床的思考過程を学ぶ講義です。文献や論文を参考にしながら積極的にディスカッションを行ってください。					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	事例研究の意義		作業療法における事例研究の意義を理解し説明できる。実践内容について理解し次回講義の準備ができる。		グループ
2	身体障害領域事例研究① 基本情報		脳血管障害についての基本的な知識を説明することができる。評価計画を立案することができる。		グループ
3	身体障害領域事例研究② 評価計画実践		対象者に立案した評価結果を実践しフィードバックを基に「模倣」レベルまでの検査・測定が実践できる。		グループ
4	身体障害領域事例研究③ 統合と解釈		対象者の評価結果をMTDLPアセスメントシートにまとめ、課題を整理できる。課題の関係性を説明することができる。		グループ
5	身体障害領域事例研究④ 治療計画立案		統合と解釈のフィードバックおよび課題の焦点化を理解できる。プロトコールに沿った治療計画立案ができる。		グループ
6	身体障害領域事例研究⑤ 治療計画立案		対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる。		グループ
7	身体障害領域事例研究⑥ 治療計画実践		治療計画立案したプログラムについて実践し、フィードバックを受けて修正することで「実施」レベルの準備ができる。		グループ
8	精神障害領域事例研究① 評価計画立案		事例の疾患・障害について理解し説明することができる。対象者の作業遂行文脈を踏まえた評価計画立案ができる。		グループ
9	精神障害領域事例研究② 統合と解釈		事例の評価結果に基づいてMTDLPアセスメントシートに課題を整理できる。課題の関係性を説明できる。		グループ
10	精神障害領域事例研究③ 治療計画立案		対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる。		グループ
11	精神障害領域事例研究④ 治療計画立案		対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる。		グループ
12	老年期領域事例研究① 評価計画立案		事例の疾患・障害について理解し説明することができる。対象者の作業遂行文脈を踏まえた評価計画立案ができる。		グループ
13	老年期領域事例研究② 統合と解釈		事例の評価結果に基づいてMTDLPアセスメントシートに課題を整理できる。課題の関係性を説明できる。		グループ
14	老年期領域事例研究③ 治療計画立案		対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる。		グループ
15	老年期領域事例研究④ 治療計画立案		対象者の作業遂行文脈を考慮した基本的プログラム・応用的プログラム・社会適応プログラムが立案できる。		グループ
期末試験	課題による評価		評価方法	課題の達成度 70% 受講態度 30%	
【教科書】	講義内で紹介します。				
【参考書】	講義内で紹介します。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】3年次の臨床作業療法学・治療学の資料を使用しますので持参してください。					
【本講義についての質問先】	担当教員		【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
作業療法マネジメント概論 ※ 実務経験のある教員の授業科目		薄井俊介			薄井
		病院(作業療法士)11年勤務			
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療学科	4	前期	8(15)	講義	1
【授業の概要・目的】					
作業療法部門の管理・運営について理解を深め、作業療法に必要な情報・サービス・安全・業務等のマネジメント能力を身につける。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法マネジメントの資源とその特性について理解を深める。 ②医療チームの一員としての業務遂行に必要な能力を身につける。 ③作業療法業務のマネジメントをPDCAサイクルに則り実行できる。 ④ ⑤				チームで働く力 知識・理解 専門職としてのスキル・意識 情報活用能力 問題解決力	
【履修上の注意】臨床実習でも必要な知識としてとらえること。					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	作業療法とマネジメント	「マネジメント」および「PDCAサイクル」の意味を理解し、組織の一員としての作業療法を理解する。			個人
2	組織の成り立ちとマネジメント	「情報」をチーム医療の中で活用する方法や手段、注意点を理解する。			個人
3	情報のマネジメント	「医療サービス」とはなにかを理解し、質の高い医療サービスを提供する手段を身につける。			個人
4	医療サービスのマネジメント	リスクマネジメントについて理解し、事故報告書等の必要性と作成方法を身につける。			個人
5	医療安全のマネジメント	作業療法部門における人材育成、環境整備、物品管理など、マネジメントの実際について理解する。			グループ
6	作業療法業務のマネジメント① 人・物・経済性のマネジメント	作業療法部門における人材育成、環境整備、物品管理など、マネジメントの実際について理解する。			グループ
7	作業療法業務のマネジメント② 情報・時間・ストレスのマネジメント	作業療法部門における人材育成、環境整備、物品管理など、マネジメントの実際について理解する。			グループ
8	作業療法業務のマネジメント③ 実践からの学び	作業療法士に必要な卒業教育、臨床研究やキャリア制度について理解を深める。			個人
9					
10					
11					
12					
13					
14					
15					
期末試験	課題による評価	評価方法	課題の達成度	100%	
【教科書】	作業療法管理学入門(医歯薬出版)				
【参考書】	特に定めない				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		予習・復習を求める内容は都度提示する。			
【本講義に関しての質問先】		担当教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(1/5)		田中絹代			田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5
【授業の概要・目的】					
国家試験対策を小グループで行う。国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は、卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる。 ②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる。 ③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる。 ④ ⑤				知識・理解 情報活用能力 統合的学習体験 問題解決力	
【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	ガイダンス		小グループ方式での学習実践について説明する。 小グループで学習計画を立案する。		グループ
2	グループ学習 1: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
3	グループ学習 2: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
4	グループ学習 3: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
5	グループ学習 4: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
6	グループ学習 5: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
7	グループ学習 6: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
8	グループ学習 7: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
9	グループ学習 8: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
10	グループ学習 9: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
11	グループ学習 10: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
12	グループ学習 11: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
13	グループ学習 12: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
14	グループ学習 13: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
15	グループ学習 14: 基礎医学		基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。		グループ
期末試験			評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	1~3年時に使用した教科書全般。				
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り					
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(2/5)		田中絹代			田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5
【授業の概要・目的】					
国家試験対策を小グループで行う。国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は、卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる。 ②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる。 ③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる。 ④ ⑤				知識・理解 情報活用能力 統合的学習体験 問題解決力	
【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	グループ学習 15:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
2	グループ学習 16:基礎医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
3	グループ学習 17:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
4	グループ学習 18:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
5	グループ学習 19:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
6	グループ学習 20:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
7	グループ学習 21:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
8	グループ学習 22:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
9	グループ学習 23:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
10	グループ学習 24:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
11	グループ学習 25:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
12	グループ学習 26:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
13	グループ学習 27:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
14	グループ学習 28:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
15	グループ学習 29:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
期末試験		評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	1~3年時に使用した教科書全般。				
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		グループ学習の振り返り			
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(3/5)		田中絹代			田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5
【授業の概要・目的】					
国家試験対策を小グループで行う。国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は、卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる。 ②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる。 ③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる。 ④ ⑤				知識・理解 情報活用能力 統合的学習体験 問題解決力	
【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	グループ学習 30:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
2	グループ学習 31:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
3	グループ学習 32:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
4	グループ学習 33:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
5	グループ学習 34:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
6	グループ学習 35:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
7	グループ学習 36:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
8	グループ学習 37:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
9	グループ学習 38:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
10	グループ学習 39:臨床医学	基礎医学(解剖学・運動学・生理学)の知識整理と臨床医学とのつながりについて口頭試問及びミニテストで確認する。			グループ
11	グループ学習 40:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
12	グループ学習 41:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
13	グループ学習 42:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
14	グループ学習 43:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
15	グループ学習 44:実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
期末試験		評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般。				
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り					
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(4/5)		田中絹代			田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5
【授業の概要・目的】					
国家試験対策を小グループで行う。国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は、卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる。 ②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる。 ③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる。 ④ ⑤				知識・理解 情報活用能力 統合的学習体験 問題解決力	
【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること					
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法
1	グループ学習 45: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
2	グループ学習 46: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
3	グループ学習 47: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
4	グループ学習 48: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
5	グループ学習 49: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
6	グループ学習 50: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
7	グループ学習 51: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
8	グループ学習 52: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
9	グループ学習 53: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
10	グループ学習 54: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
11	グループ学習 55: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
12	グループ学習 56: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
13	グループ学習 57: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
14	グループ学習 58: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
15	グループ学習 59: 実地	領域別作業療法実践の実施の要点をまとめて口頭試問およびミニテストで確認する。			グループ
期末試験		評価方法	筆記試験	100%	
【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般。				
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り					
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】
総合演習(5/5)		田中絹代			田中
【対象学科】	【学年】	【開講時期】	【回数(時間)】	【授業形態】	【単位】
作業療法学科	4	後期	75(150)	演習・実習	5
【授業の概要・目的】					
国家試験対策を小グループで行う。国家試験合格を目的とした知識・技術の整理と学習は、卒後の臨床にも役立つのでしっかり取り組む。					
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】	
①作業療法実践に必要な解剖学・運動学・生理学の基礎知識を活用できる。 ②臨床医学の要点を整理することで作業療法実践に活用できる。 ③作業療法実践に活用できる領域別の治療の知識を深め実践できる。 ④ ⑤				知識・理解 情報活用能力 統合的学習体験 問題解決力	
【履修上の注意】グループ学習の準備や振りかえりなど自己学習も計画的に進めること					
回数	授業のテーマ(担当教員)		授業の内容・目標(使用教材等)		授業方法
1	グループ学習 60:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
2	グループ学習 61:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
3	グループ学習 62:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
4	グループ学習 63:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
5	グループ学習 64:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
6	グループ学習 65:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
7	グループ学習 66:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
8	グループ学習 67:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
9	グループ学習 68:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
10	グループ学習 69:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
11	グループ学習 70:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
12	グループ学習 71:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
13	グループ学習 72:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
14	グループ学習 73:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
15	グループ学習 74:到達度確認		過去の国家試験問題10年分に取り組み、問題の解説と回答を行う。苦手分野は口頭試問を行うことで理解を深める。		グループ
期末試験			評価方法	筆記試験 100%	
【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般。				
【参考書】	作業療法士国家試験必修ポイント全4冊, 医歯薬出版。				
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】グループ学習の振り返り					
【本講義についての質問先】		学科教員	【質問方法】	教員室にて	

【科目名】		【担当教員】			【科目責任者】	
臨床実習		作業療法学科教員			田中	
		【対象学科】	【学年】	【開講時期】		【回数(時間)】
作業療法学科		4	通年	(720)	実習	16
【授業の概要・目的】						
学内で学んだ基礎医学分野・臨床医学分野・専門分野の知識・技術を総合的に活用し、対象者を理解するために臨床の場面で体験・実践する。						
【学習目標(到達目標)】				【受講して得られる力】		
①実習先で正統的周辺参加し、チームの一員として作業療法実践の一部を担える。 ②体験した作業療法実践内容を記録し、臨床的思考過程をCEと共有できる。 ③事前学習した基礎医学・臨床医学・作業療法実践の知識を活用できる。 ④職業人として必要な社会人基礎力を高めることができる。 ⑤				チームで働く力 考え抜く力 統合的学習体験 問題解決力 論理的思考力		
【履修上の注意】CE、学内の担当教員と連絡を密に取って進める。						
回数	授業のテーマ(担当教員)	授業の内容・目標(使用教材等)			授業方法	
1w	臨床実習 I	CEと共に、様々な事例について評価および基本的な治療プログラムを立案、実施する。記録や報告、統合と解釈、事例報告書の作成を通じCEの臨床的思考を共有し深める。				
2w	臨床実習 I					
3w	臨床実習 I					
4w	臨床実習 I					
5w	臨床実習 I					
6w	臨床実習 I					
7w	臨床実習 I					
8w	臨床実習 I					
9w	臨床実習 II					
10w	臨床実習 II					
11w	臨床実習 II					
12w	臨床実習 II					
13w	臨床実習 II					
14w	臨床実習 II					
15w	臨床実習 II					
16w	臨床実習 II	評価方法	課題の達成度	100%		
【教科書】	1～3年時に使用した教科書全般。					
【参考書】	1～3年時に使用した教科書全般。					
【授業時間外に必要な学習の具体的内容】		実習記録や症例のまとめなど				
【本講義についての質問先】		担当教員	【質問方法】	メール連絡	ot-department@k-tohto.ac.jp	